



「大人×若者」をつなぎ、足立から元気と未来を発信！

なりわいプロジェクト

あだちの社長に聴く／足立の社長の
お話から元気と未来を発信します。

あだちな元気ビト／あだちに関わる
元気ビトをご紹介します。

なりわいのかたち／さまざまな
「なりわい」のありようをご紹介します。

なりわいプロジェクトは情報発信・出会いの場づくり・仕事の場づくりを通し働く方がたの仕事とHappyの創出を目指します。

記事一覧

コロナに負けない！ 横向きのチカラ、広がる取り組み ～横引きシャッター、足立区への恩返し～

2020/05/28 0
6:42

コロナに負けない！ 横向きのチカラ、広がる取り組み ～横引きシャッター、足立区への恩返し～

株式会社横引シャッター
代表 市川 慎次郎

●利潤追求の前に社会への貢献と恩返しの気持ちで横に引くシャッターの専門メーカー株式会社横引きシャッターが足立区役所に「アクリルパーティション」を100台無償寄贈しました。地元の中小企業だからこそできた「コロナに負けない！コロナに挑む！」スピード感をもった実践のひとつです。

●「あれ、足りていないのかな」
無償寄贈のきっかけは新型コロナ禍のなか所用で訪れた足立区役所で、飛沫感染防止の一策であるアクリルパーティションがある部署とない部署があることに気づいたことです。パーティションがない窓口で、自らの感染への危険も厭わず区民に誠実に親身に対応している区役所職員たちの姿勢に頭がさがる思いを抱きながら「もしかしたら、パーティションの数が足りていないのでは」と疑問を持ったそう。聞いてみると案の定、その通りでした。

●試作と納入を急ピッチで
企業テーマの一つである「足立区への恩返し」を実践するまたとない機会、とらえた市川社長。モノづくり企業としての底力を発揮すべく迅速な行動を起こします。
5月1日に使い勝手のヒヤリングから開始。試作を繰り返して5月15日は早くも100台を無償提供しました。以降、急ピッチで制作を進め、出来次第随時納入を続けました。
こうした迅速な行動には、同社が、グループ会社で看板製作業も行っており、その材料と技術があったことが奏功したそうです。
現在では、学校用（生徒用）のアクリルパーティションやPCR検査場試作にも取り組んでいます。



cap> 足立区で行われたパーティション贈呈式

「会社は地域の自治体や地域に住まう方々あってのもの。『身の丈に合った社会貢献』と『足立区へ恩返し』をいつも心がけています」

●社員は宝。地域とともに健康に、豊かに
また市川社長の取り組みは、会社を支える社員にも向いています。そこには何より「社員が会社をつくる、次代を牽引していく「人材」である」との思いがあるからです。
今回の状況においても、たとえば個々の通勤時間帯を自身の裁量で選べ出社する超変形フレックスを導入し業務時間が短縮されても給料は据え置いています。また、全社員にヒヤリングを行い、出勤日の変更、在宅勤務もしくは補償付き休業へ個別に変更できる措置もとっています。
もちろん事務所や工場内に次亜塩素酸水の噴霧器を設置したり、社員へのマスクやアルコール消毒液の配布を行うなど基本的な対応策も行なっています。
こうしたコロナ対策の費用は、約100万円かかっているといいます。「それでも当社があるのはお客様と、社員があるから」と市川社長。



cap> 職員と区民を守るパーティション

「会社の安全を保ちつつ、社員全員に心のゆとりを持ってもらい一丸となり、社会への恩返しをしていきたい。微力ながら当社ができることに力を借しませません」



<https://www.yokobiki-shutter.co.jp/>



なりわいプロジェクトから発信



Author:なりわいプロジェクト
<足立の社長に聴く>
足立区の元気な事業者インタビューし、創業から今に至る会社の歴史、事業への思い、製品やサービスへのこだわりをお聴きし、「足立ブランド」の底力と、地域の活性化に向けた姿勢をお伝えしていきます。
「足立から元気と未来」を発信！

<あだちな元気ビト>
足立区を基盤に、子供、福祉、まちづくり、コミュニティマネジメントなど、さまざまな活動を展開する「元気ビト」を紹介していきます。

<なりわいのかたち>
さまざまな職業人の、現在の「なりわい」に至るすじみちや、今、最も力を入れて取り組んでいること、また未来への展望などについてインタビューした内容をご紹介します。

カテゴリ

- 足立の社長に聴く (14)
- あだちな元気ビト! (5)
- なりわいのかたち (41)
- トなりわい「グローバルアクティビティ」 (3)
- トなりわい「創る」 (3)
- トなりわい「エンターテインメント」 (2)
- トなりわい「教育・コンサルティング」 (9)
- トなりわい「心身のサポート」 (4)
- トなりわい「パーソナルサービス」 (2)
- トなりわい「法曹・法務」 (4)
- トなりわい「社会貢献」 (5)
- トなりわい「まちづくり」 (5)
- トなりわい「スモールビジネス」 (1)
- トなりわい「フードサービス」 (1)
- 未分類 (0)

●利潤追求の前に社会への貢献と恩返し of 気持ちを
横に引くシャッターの専門メーカー株式会社横引きシャッターが足立区役所に「アクリルパーティション」を100台無償寄贈しました。地元の中小企業だからこそできた「コロナに負けない！コロナに挑む！」スピード感をもった実践のひとつです。

●「あれ、足りていないのかな」
無償寄贈のきっかけは新型コロナ禍のなか所用で訪れた足立区役所で、飛沫感染防止の一策であるアクリルパーティションがある部署とない部署があることに気づいたことです。
パーティションがない窓口で、自らの感染への危険も厭わず区民に誠実に親身に対応している区役所職員たちの姿勢に頭がさがる思いを抱きながら「もしかしたら、パーティションの数が足りていないのでは」と疑問を持ったそう。聞いてみると案の定、その通りでした。

●試作と納入を急ピッチで
企業テーマの一つである「足立区への恩返し」を実践するまたとない機会、ととらえた市川社長。モノづくり企業としての底力を発揮すべく迅速な行動を起こします。
5月1日に使い勝手のヒヤリングから開始。試作を繰り返して5月15日は早くも100台を無償提供しました。以降、急ピッチで制作を進め、出来次第随時納入を続けました。
こうした迅速な行動には、同社が、グループ会社で看板製作業も行っており、その材料と技術があったことが奏功したそうです。
現在では、学校用（生徒用）のアクリルパーティションやPCR検査場試作にも取り組んでいます。



cap>足立区で行われたパーティション贈呈式

「会社は地域の自治体や地域に住まう方々あつてのもの。『身の丈に合った社会貢献』と『足立区へ恩返し』をいつも心がけています」

●社員は宝。地域とともに健康に、豊かに
また市川社長の取り組みは、会社を支える社員にも向いています。そこには何より「社員が会社をつくる、次代を牽引していく「人財」である」との思いがあるからです。
今回の状況においても、たとえば個々の通勤時間帯を自身の裁量で選び出社する超変形フレックスを導入し業務時間が短縮されても給料は据え置いています。また、全社員にヒヤリングを行い、出勤日の変更、在宅勤務もしくは補償付き休業へ個別に変更できる措置もとっています。
もちろん事務所や工場内に次亜塩素酸水の噴霧器を設置したり、社員へのマスクやアルコール消毒液の配布を行うなど基本的な対応策も行なっています。
こうしたコロナ対策の費用は、約100万円かかっているといいます。「それでも当社があるのはお客様と、社員があるから」と市川社長。



cap>職員と区民を守るパーティション

「会社の安全を保ちつつ、社員全員に心のゆとりを持ってもらい一丸となり、社会への恩返しをしていきたい。微力ながら当社ができることに力を惜しみません」